

【二回戦】 B③

5回コールドゲーム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
豊玉町野球部	0	0	0	0	0					0
株式会社親和銀行	3	7	6	3	X					19

開始 12:55 終了 14:27 所要 1時間32分

【審判】 谷本優太

【三塁打】 貫亮介、鹿田海斗

糸瀬 明

森内麟太郎、西郷龍太郎

山下英一郎

【二塁打】 北田亮佑2、山口優大、鹿田海斗

財部 晃

【豊玉町野球部】		打	安	点	球
⑥	扇 祥喜	31	2	0	0
⑧1	小島 洋平	40	2	1	0
③	森 俊介	35	2	0	0
⑤	村瀬 裕亮	43	2	0	0
①48	松本 拓之	30	2	0	0
⑦	齋藤 公敬	31	2	1	0
②	糸瀬 慎吾	35	2	0	0
④14	樋口 和	29	2	0	0
⑨	阿比留良拓	41	1	0	0
H	梅野 譲治	35	1	0	0
犠0振8残3併0失1		18	2	0	0

試合開始前から小雨状態の中で開始した試合は三回頃からグラウンド状態は不良となってきたが続行。親和銀行が19点差を付けてコールド勝ちした。

初回は北田の適時二塁打や犠飛などで3得点。二回は先頭貫の右線三塁打に続き鹿田も左中間三塁打。三ゴロ野選や北田の2打席連続二塁打後に3連続の死球で押し出した後に、代打の森内が満塁一掃の中越え三塁打などで7得点。三回には山口の安打から代打西郷の右線二塁打。磯の犠飛失に3四死球で押し出した後に鹿田の犠飛。二死二三塁で山口の左越えエンタイトル2点二塁打で12人攻撃の6得点。四回に代った小島からは大竹、森内が連安打。貫が四球の一死満塁走者を鹿田の右線二塁打で一掃した。

先発投手の岡部は二回を投じて4三振。初回一死後に失策走者を、二回一死後には齋藤に中前打されたが二進を許さず。三回は東川が二死後に小島から中前打も後続を断ち、四回の鳥越は2三振、五回の栗山も2三振を奪い、4投手リレーで二塁を踏ませなかった。

豊玉町野球部は平成2年の高松宮賜杯1部全国大会に出場した“豊玉クラブ”が改称したチーム。同4年の天皇賜杯県大会では2勝してベスト4進出。その後三度の対馬代表となっているが、今回は開催地2枠で平成11年以来20年ぶりの天皇賜杯県大会だった。

【株式会社 親和銀行】 打安点球

⑨8	鹿田 海斗	23	2	2	5	2
⑤	高井 航平	27	3	1	1	0
1	東川 賢輔	33	0	0	0	0
H	内山 大輔	34	0	0	0	1
1	鳥越 大地	23	0	0	0	0
H	小川 優介	22	1	0	0	0
1	栗山 和高	28	0	0	0	0
⑥	山口 優大	25	5	3	3	0
⑧	北田 亮祐	30	2	2	2	0
9	西郷龍太郎	30	2	1	1	1
⑦4	磯 祐一郎	28	1	0	1	2
②	高坂 幸靖	27	1	0	0	3
④5	大竹 紘人	25	1	1	2	2
①	岡部慎太郎	28	1	0	0	0
H3	森内麟太郎	23	3	2	3	0
③7	貫 亮介	23	2	1	1	2

犠3振0残8併0失1 24 13 19 13

[控え] 安井謙造 (25)

